

3月5日、市内3つの中学校で卒業式が行われました。市長が長久手中学校の卒業式に参加し、次の言葉を卒業生に送ったと、後日、政策秘書課職員に話した内容です。

みんな大事な存在

長久手中学校の卒業式で、中学生のみんなに「とにかく命が大事なんだ」ということ、「勉強ができる、できないという価値観だけじゃないんだ」の2つのことを伝えたいので、こんな話をさせていただきました。

2045年、コンピューター（人工知能）が、人間の知識を超えるという説があります。自動車メーカーの方からは、近い将来、運転をしなくても目的地まで行ける車ができるだろうとも聞きました。今でも、分からないことは、スマホやタブレットですぐに調べることができるようになりました。

将来、人間は、知識ではコンピューターに負けるかもしれませんが、でも、絶対に人間がコンピューターに勝てるものがあります。それは、他人に優しくすることや恋をすること、相手を思いやる気持ちなどです。コンピューターが発達すればするほど、勉強以外の部分で評価される時代がやってくるはずですよ。

地球が寒かった時代、寒さに強い人間が生き残りました。その後、暑い時代になったとき、暑さに強い人間は寒さに強い人（＝暑さに弱い人）を見捨てることなく、洞窟の奥などに住まわせ、食べ物を運び、守ってきました。そのように、どの時代でも、みんながお互いを大事に思って、支え合ってきました。

どの親も、自分の子どもを大事に思って育てています。みんな、「自分は大事な存在なんだ」ということに気付いて欲しいと思います。

先日、長久手市国際交流協会主催の講演会で、「いろいろなものが存在し、混じり合う多様性こそ、持続性のある方法だ」という話を聞きました。同じ能力を持つ人が集まれば、効率的かもしれませんが、でも、寒さに強い人、暑さに強い人がいる多様性があったからこそ、人類滅亡というリスクが回避できたのです。

子ども達が、「いろいろな人が居ていいんだ」「自分がここに居ていいんだ」と思える社会にしていきたいと思っています。そのためには、まず、私たち大人が、率先して「相手の目を見て、話を聞く、うなずく」「笑顔であいさつをする」ことだと思っています。たったそれだけのことで、「私は必要とされている」「私はここに居ていいんだ」という自己肯定感につながるのです。

～市長の話を聞いて～

私も人前で説明等をする機会があります。私の目を見てうなずいてくれる人がいると「聞いてもらえている」と安心します。そうしたことを経験することで、自分自身が説明を聞く際には、なるべく下を向かず、話している人を見ようと思うようになりました。そうした経験の連鎖が、広がっていくといいなと思っています。